

# 九州地域の大豆をめぐる事情



平成 1 9 年 8 月

九州農政局生産経営流通部農産課

## 1 作付面積と生産量

国産大豆の生産は、「水田を中心とした土地利用型農業活性化対策」（平成11年10月策定）の推進等とともに、近年、生産量、作付面積ともに増加傾向にあり、平成13年、14年には生産量27万トンに拡大しました。

しかし、平成15年、16年と播種時期の長雨や台風等の気象災害のため生産量が大きく減少するとともに、平成16年、17年と作付面積についてもやや減少傾向となっています。

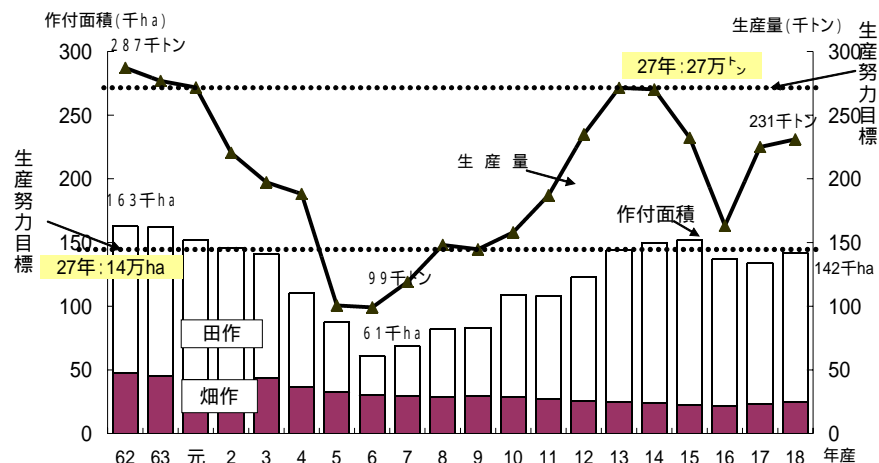
18年については、品目横断的経営安定対策の関係から作付面積が若干増加しました。

なお、平成17年3月に策定された新たな「食料・農業・農村基本計画」における生産努力目標では、作付面積14万ha、生産量27万トン（27年目標）となっています。

九州の大豆生産は、ほとんどが水田で行われています。九州地域の18年産の作付面積は、前年に比べ100ヘクタール減少し2万2,500ヘクタールとなっており、九州の全国に占める割合は約16%（都府県に占める割合は約20%）となっています。

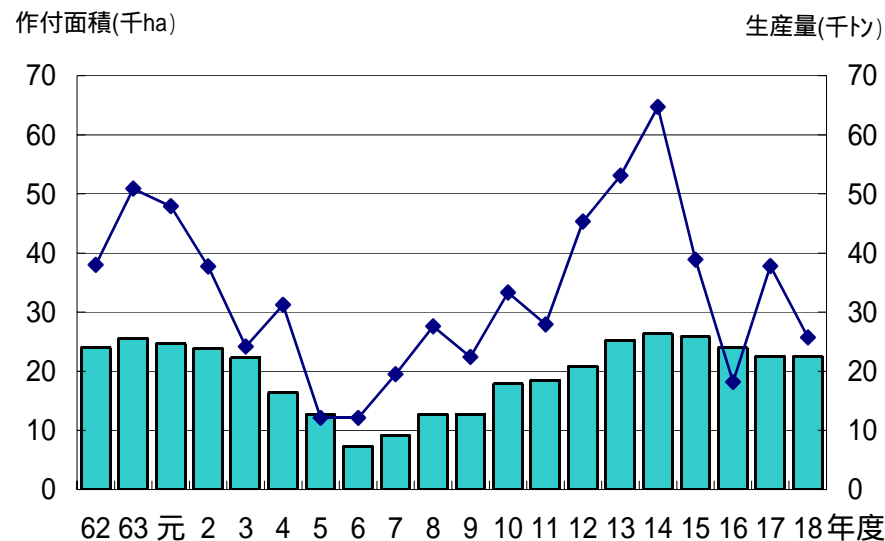
県別には福岡県が8,110ヘクタールで最も多く、次が佐賀県の7,490ヘクタールとなっており、この両県で九州の作付面積の69%を占めています。

## 大豆の作付面積及び生産量の推移（全国）



資料：「作物統計」農林水産省統計部

## 大豆の作付面積及び生産量の推移（九州）



資料：「作物統計」農林水産省統計部

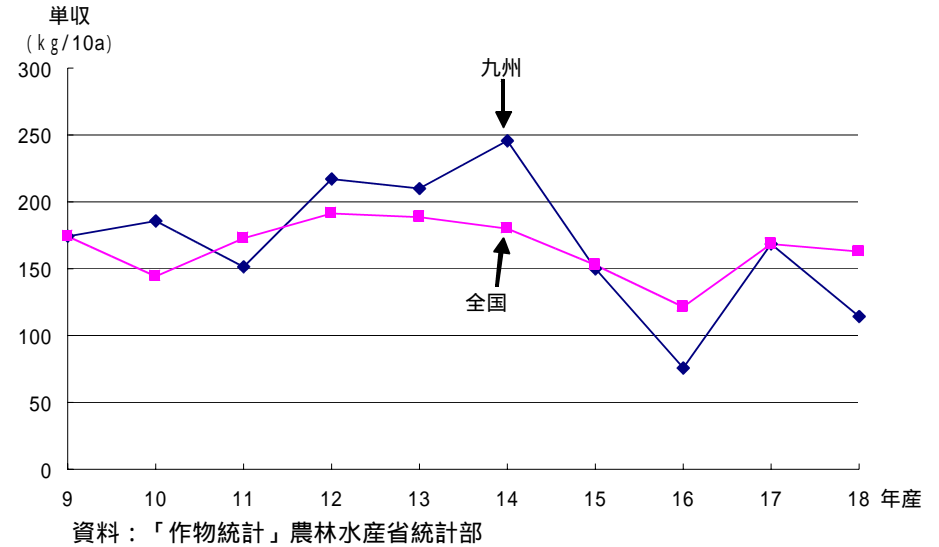
## 2 単収と等級

全国の大豆の単収は、台風等の気象災害を受けた16年産を除くと150～200kg/10aで推移しています。

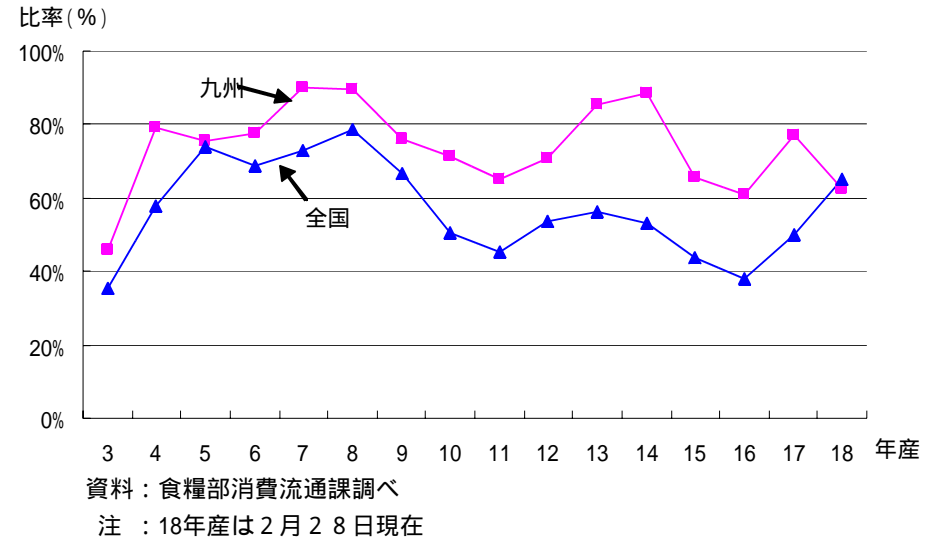
九州の単収は、12年産から14年産では200kg/10aを超えるなど収量が高い地域となっていますが、15年産以降、播種時期の長雨、日照不足、台風などの天候不順による不良で全国よりを下回っており、単収の年次変動が大きいことが、課題となっております。

農産物検査の等級割合を見てみると、九州大豆の上位等級（1等及び2等）比率は、毎年全国平均値を上回り、流通業者を始め実需者からも高い評価を得ています。

### 大豆の10アール当たりの収穫量の推移



### 上位等級比率の推移



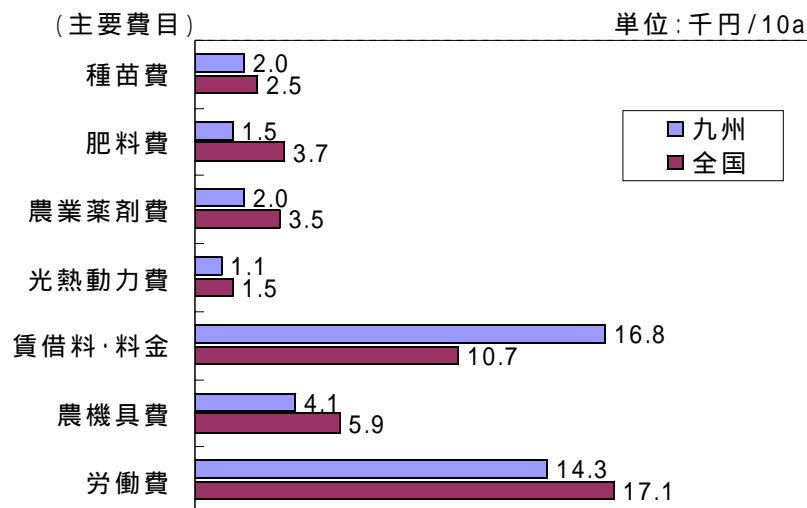
### 3 生産費、労働時間の動向

大豆の10a当たりの生産費は、全国では7万円/10a前後で微減傾向に推移しています。

九州の生産費は、近年6万円/10aまでコストの削減がなされています。主要項目の費用をみると、全国と比べ、賃借料・料金が大きく、それ以外の項目で全て低くなっています。これは、大型機械の共同利用、共同乾燥施設への委託等により、労働力の省力化、農機具費の削減が行われているためです。

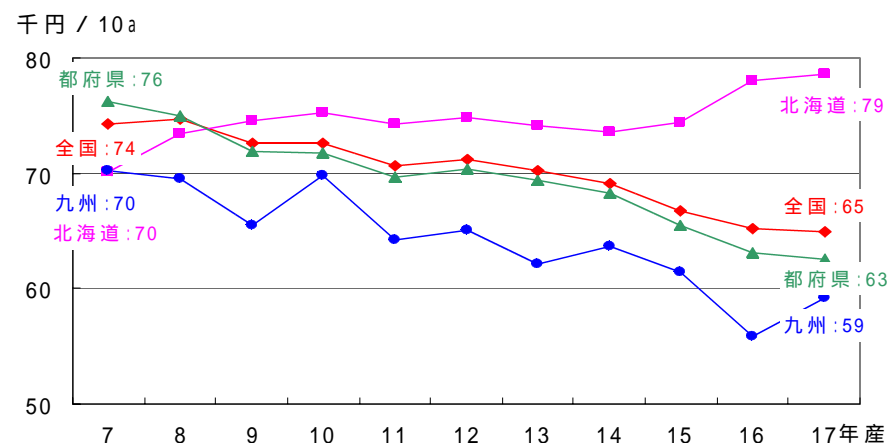
なお、九州の17年産の生産費は、前年に比べ6.0%増加しました。これは、16年産が台風の襲来等で収量が減少したことにより、労働費が少なかったためです。

#### 大豆の主要項目の費用(平成17年産)



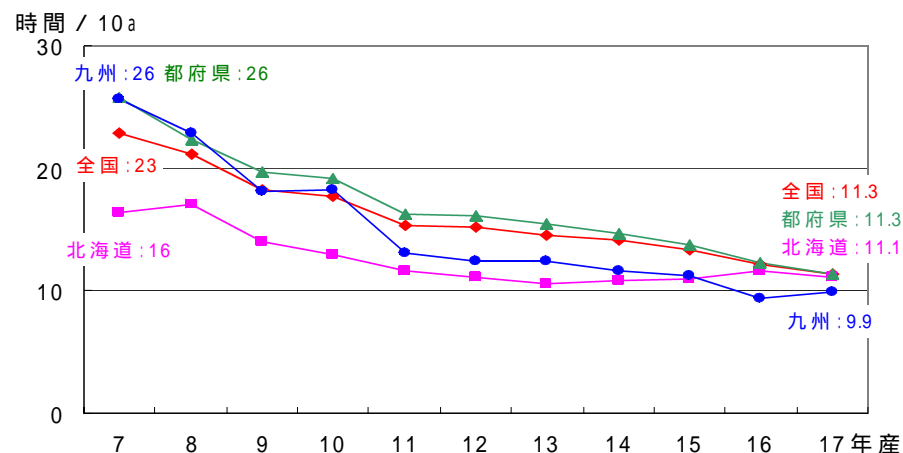
資料：農業経営統計調査「大豆生産費」農林水産省統計部

#### 大豆の生産費の推移(10a当たり全参入生産費)



資料：農業経営統計調査「大豆生産費」農林水産省統計部

#### 大豆の労働時間の推移(直接労働時間)



資料：農業経営統計調査「作物統計」農林水産省統計部

#### 4 九州の大豆品種

大豆の品種別作付面積は、18年産で「フクユタカ」が1万9,659ha（九州の87%）で最も多く、次いで、「むらゆたか」の2,303ha（同10%）となっており、豆腐加工適性に優れたこの2品種で九州の97%を占めています。

一物品種に栽培が集中すると、台風等気象災害が発生した際に、大きな被害を受けることが懸念されるため、フクユタカに代わる豆腐加工適正に優れた早生品種の開発が課題となっております。

#### 大豆品種別作付面積(平成18年産)

単位：上段ha, 下段%

順位	品種名	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	九州計
1	フクユタカ	8,044 (99)	6,420 (86)	546 (100)	3,029 (98)	903 (37)	346 (76)	371 (96)	19,659 (87)
2	むらゆたか		1,069 (14)			1,234 (51)			2,303 (10)
3	トヨシロメ					226 (9.3)			226 (1.0)
4	サチユタカ	69 (0.9)							69 (0.3)
5	キヨミドリ						57 (12)		57 (0.3)
6	エルスター				5 (0.2)	43 (1.8)			48 (0.2)
7	すずおとめ				46 (1.5)		0 (0.1)		46 (0.2)
8	黒大豆		1 (0.0)				0 (0.1)		1 (0.0)
	その他					14 (0.6)	54 (12)	15 (3.9)	83 (0.4)
	計	8,113 (100)	7,490 (100)	546 (100)	3,080 (100)	2,420 (100)	457 (100)	386 (100)	22,492 (100)

資料：農林水産省生産局農産振興課調べ

また、青臭みがなく、豆乳や粉にして多用途に利用できる「エルスター」、風味の優れたうす緑色の豆腐ができる「キヨミドリ」、平成16年度に登録新品種として、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構九州沖縄農業研究センター（熊本県合志市）で育成された煮豆加工での製品歩留まりの高い黒大豆「クロダマル」などの品種が、地域特産大豆などとして作付けが行われています。

#### 《特色ある九州産大豆の品種》

##### ・エルスター

青臭みをつくる酵素であるリポキシゲナーゼを欠失しているため、豆乳加工適性に優れています。また、粉にしても青臭みがないことから、小麦粉に混ぜるなどしてこれまでの大豆とは異なる用途で利用することができます。

##### ・すずおとめ

納豆用小粒大豆で、豆の大きさは普通の大豆の半分以下。納豆加工適性に優れています。

##### ・キヨミドリ

子葉まで緑色を呈しているため、緑色を利用した緑豆腐、うぐいす黄粉などが作れ普通黄大豆にない新しい風味の大豆製品の開発が可能です。

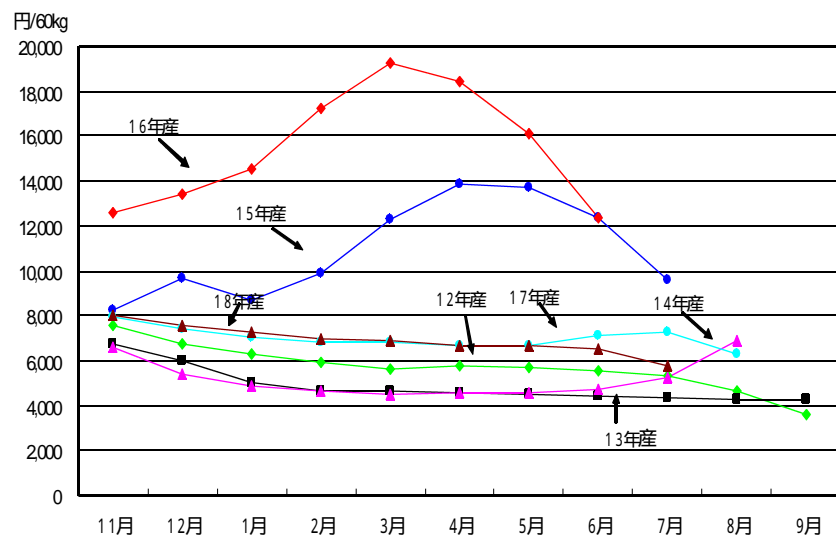
## 5 九州産大豆の販売状況

国産大豆の販売価格は、生産量の急激な増加に伴い、11年産から14年産にかけて急落しましたが、15、16年産は不作等により一転して高騰する等、年次変動が大きくなっています。

品種別にみると、18年産九州大豆はほぼ全国平均並みで取引されております。

また、取引形態別販売数量を見ると、契約栽培が大幅に拡大しています。

国産大豆の平均入札販売価格の推移(全国/年次別・月別)



資料：(財)日本特産農産物協会入札結果より

注：入札販売価格には消費税を含まない。

主要銘柄大豆の入札販売結果の推移

単位：円/60kg

県	品種	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年
全国	普通大豆平均	6,048	4,783	4,839	10,265	15,806	6,931	6,851
北海道	大粒 とよまさり	6,567	5,556	5,800	12,182	18,039	8,187	7,613
	小粒 スズマル	5,971	5,372	7,214	18,140	13,689	7,159	6,189
栃木	大粒 タチナガハ	6,127	4,883	4,620	9,075	15,299	6,738	7,001
新潟	大粒 エンレイ	6,287	4,392	4,525	9,010	16,680	6,954	7,168
福岡	大粒 フクユタカ	6,137	4,436	4,621	11,091	19,847	6,619	7,113
	大粒 フクユタカ	6,221	4,386	4,638	11,033	20,079	7,231	7,231
佐賀	大粒 むらゆたか	6,257	4,429	4,465	11,888	17,899	8,992	9,380
	大粒 フクユタカ	6,106	4,520	5,031	9,073	21,502	6,735	-
熊本	大粒 フクユタカ	5,714	4,545	4,650	11,551	21,321	6,485	7,001
大分	大粒 フクユタカ	-	4,187	4,719	10,757	19,400	6,473	6,897
	大粒 むらゆたか	5,162	4,301	4,211	9,718	15,273	6,624	6,814
	大粒 トヨシロメ	4,597	4,555	4,300	8,537	19,600	6,328	6,800
宮崎	大粒 フクユタカ	4,492	4,556	4,376	8,844	-	-	-
鹿児島	大粒 フクユタカ	5,739	4,309	4,263	10,311	-	7,525	7,209

資料：(財)日本特産農産物協会入札結果より

注：入札価格には消費税を含む。

注：18年産は、7月末現在

取引形態別販売数量

単位：千トン、%

	13年産		14年産		15年産		16年産		17年産	
	数量	シェア	数量	シェア	数量	シェア	数量	シェア	数量	シェア
入札取引	34	19	71	38	61	41	33	34	38	26
相対取引	136	76	96	52	46	31	9	9	21	14
契約栽培	10	5	19	10	42	28	56	57	85	59

資料：農林水産省生産局農業振興課調べ